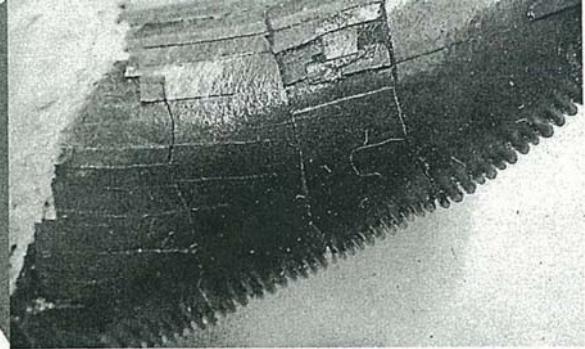


佐賀新聞 2011(平成23)年8月20日(土) 子ども佐賀新聞

「カルカロクレス・アングスティデンス」の歯の化石(全体)



ネズミザメの一種で新生代古第三紀の「カルカロクレス・アングスティデンス」の歯の化石(拡大)。サメの歯の特徴とも言えるのこぎり歯。のこぎり部分が外れると、元々の向きを判断するのは難しい(伊万里市波多津町産出、不動寺康弘氏所蔵)



新生代古第三紀の「ナガオミノガイ」化石。母岩の風化も激しく、亀裂が入りやすい。クリーニングには細心の注意が必要(伊万里市波多津町産出、不動寺康弘氏所蔵)



太古の佐賀に思いはせ

②化石

「今日の化石は何ですか？
恐竜ですか？」

先日、県立博物館で「化石クリーニング体験教室」を開催しました。開始前、机に道具を置くと、さや、声を弾ませながらこう聞きにきてくれた子どもたちがいました。

笑顔で「いいえ、貝です」と答えると、お互いに顔を見合わせ「え？ 貝？」「貝とか、その辺におるやん」。小声で話すその姿はちょっと悲しそうでした。

▶県内地質大きく4つ

教室では、まず佐賀県の地質構造について解説しました。佐賀県の地質は大きく4つに分けられます。古い順に、脊振山地一帯に広がる花崗岩類、日笠峠付近に見られる堆積岩、東松浦半島から多良岳にかけて点在した火山による火成岩、そして佐賀平野を造る

クリーニング作業を体験

堆積層です。県内の地層は、すべて新生代になってからのもので、恐竜の時代(中生代)の地層は見つかっていません。

ここで一気に落胆する子どもたちに、続いてもう一つ、日本の化石発掘作業の難しさを話しました。世界でも地殻変動の大きな地域にある日本の大地は常に大きな力を受けてきました。産出する化石も熱と圧力とで歪んでいるものが多く、作業中に化石が割れるのはごく自然なことです。大切なのは割れた破片を見失わないこと。接着剤で補修しながら作業を進めるよう伝えました。

▶大粒の汗と達成感

そして、いよいよ実戦。母岩に走る微妙な層を読んでタガネをあて、ハンマーで叩きます。3000万年の眠りから覚めた貝たちが子どもたちの手によって掘り出さ

れ、補修され、手際よく次々と箱に並べられていきました。接着剤で光る二枚貝や巻貝の化石を誇らしげに見せてくれる子どもたちの顔は、大粒の汗と達成感とできらきらと輝いていました。

太古の佐賀に、今は異なる形での豊かな海や湖が広がっていた時代があったようです。「いきもの いま・むかし」展では、県内採集化石の一部も展示しています。ご覧の際には、ぜひ化石の補修痕にもご注目を。採集者の熱い思いに触れることができるかもしれません。

(県立博物館学芸課 丹野佳代子)
▶「いきもの いま・むかし」展は9月25日まで県立美術館2、3号展示室で。月曜閉館、入場無料。